

## リンゴアナキゾウムシの生態について

佐藤 信雄・石谷 正博

(青森県畑作園芸試験場)

Bionomics of the *Dyscerus shikokuensis* Kono (Coleoptera: Curculionidae)

Nobuo SATO and Masahiro ISHITANI

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

### 1 はじめに

青森県での本種の発生は、1973年に三戸郡南郷村のアウトウで最初に発見され、現在では青森県の南東部の主要な果樹栽培地帯全域にみられる。

幼虫は樹幹地際の木質部に穿孔し食害するため、寄生の多い樹では衰弱して立枯れ症状を呈する。被害はアウトウ、モモ、リンゴ、ウメ、アンズ及びセイヨウナシに認め、特にアウトウとモモに多い。

ここでは成虫の捕獲消長及び各時期に捕獲した雌成虫の卵巣発育調査から産卵及び羽化時期の推定結果を報告する。

### 2 試験方法

#### (1) 成虫の捕獲消長

1978年から1982年までの5か年間、三戸郡南郷村のアウトウ園(約2ha)内の成木30本を対象として、地際部に近い樹幹に寄生する成虫を4月から10月までおよそ10日間隔で捕獲した。

#### (2) 雌成虫の卵巣発育

1980年の5月から10月までと、1981年の5月から6月まで三戸郡南郷村のアウトウ園から約10日ごとに捕獲した雌成虫各3個体を実態顕微鏡下で解剖し、卵巣の発育程度を調査した。なお、卵巣発育程度は以下の調査基準に従った。

ステージⅠ： 卵巣小管はひも状で発育が全く認められない。

ステージⅡ： 卵細胞の発育がわずかに認められる。

ステージⅢ： 卵細胞は発育肥大中であるが成熟卵は認められない。

ステージⅣ： 成熟卵が認められ、産卵あるいは産卵直前の状態に達している。

### 3 試験結果

#### (1) 成虫の捕獲消長

成虫の時期別捕獲数は、年次による変動が大きかったが、

成虫は概ね4月下旬から10月上旬まで継続的に捕獲され、その数は5～6月が最も多く、7月に減少し、8～9月に再び増加する傾向が認められた。

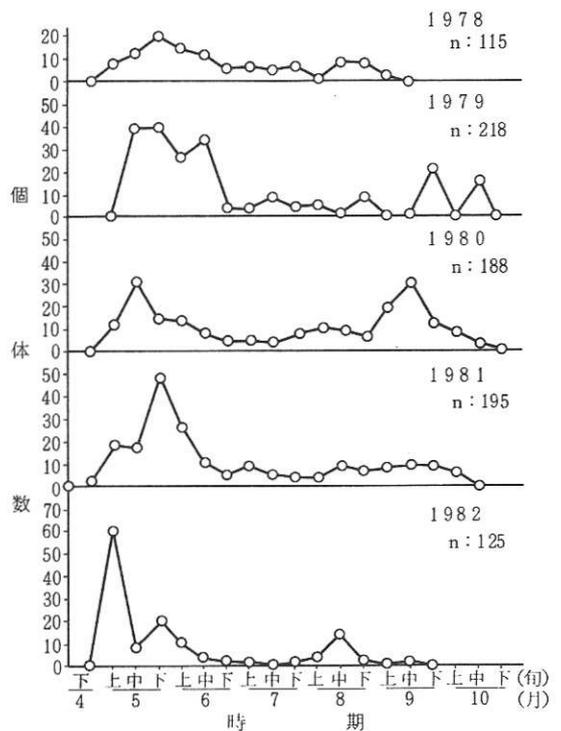


図1 成虫の捕獲消長

#### (2) 雌成虫の卵巣発育

捕獲雌成虫の卵巣発育程度には時期的な変化が認められた。すなわち、1980年の調査では、5月16日から卵細胞の肥大した個体(ステージⅢ)が捕獲され、5月21日には成熟卵を持つ個体(ステージⅣ)が捕獲され始めた。続いて5月30日から8月4日まで約2か月間の捕獲雌成虫はすべて成熟卵を有し(ステージⅣ)、8月12日から9月16日までの約1か月間の捕獲雌成虫は卵巣発育が認められなかった(ステージⅠ)。更に9月24日からは卵細胞のやや発育した個体(ステージⅡ)が捕獲されたが、その後10月中旬

表1 各時期に捕獲された雌成虫の卵巣発育

捕獲時期	卵巣の発育程度			
	I	II	III	IV
1980年 5月16日	0	1	2	0
21	0	0	1	2
30	0	0	0	3
6 10	0	0	0	3
26	0	0	0	3
7 14	0	0	0	3
24	0	0	0	3
8 4	0	0	0	3
12	3	0	0	0
9 4	3	0	0	0
16	3	0	0	0
24	0	3	0	0
10 2	0	3	0	0
17	1	2	0	0
1981 5 7	0	2	1	0
15	0	0	3	0
25	0	0	2	1
6 5	0	0	0	3
16	0	0	0	3

まではステージI～IIの範囲内にあり、大部分はステージIIであった。

1981年の調査結果も1980年とほぼ同様で、5月25日から成熟卵を持つ個体(ステージIV)が捕獲され、6月中に捕獲される雌成虫はすべて成熟卵を有していた。

#### 4 ま と め

成虫の捕獲数が8～9月に増加すること及び卵巣発育調査で8月中旬～9月中旬には卵巣発育の認められない個体が捕獲されることから、この時期に羽化が行われるものと推定される。また、羽化した雌成虫の卵巣発育は一定の段階で停止し、この段階で越冬を経て産卵するが、産卵時期は成熟卵を有する個体が捕獲される5月下旬～8月上旬と考えられる。